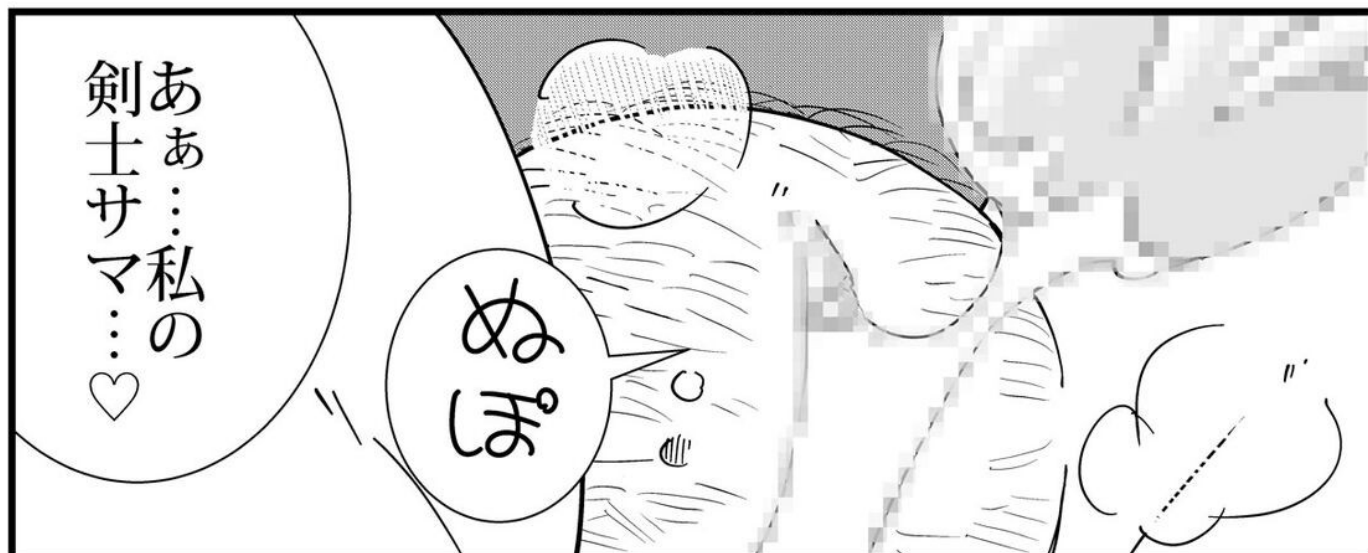
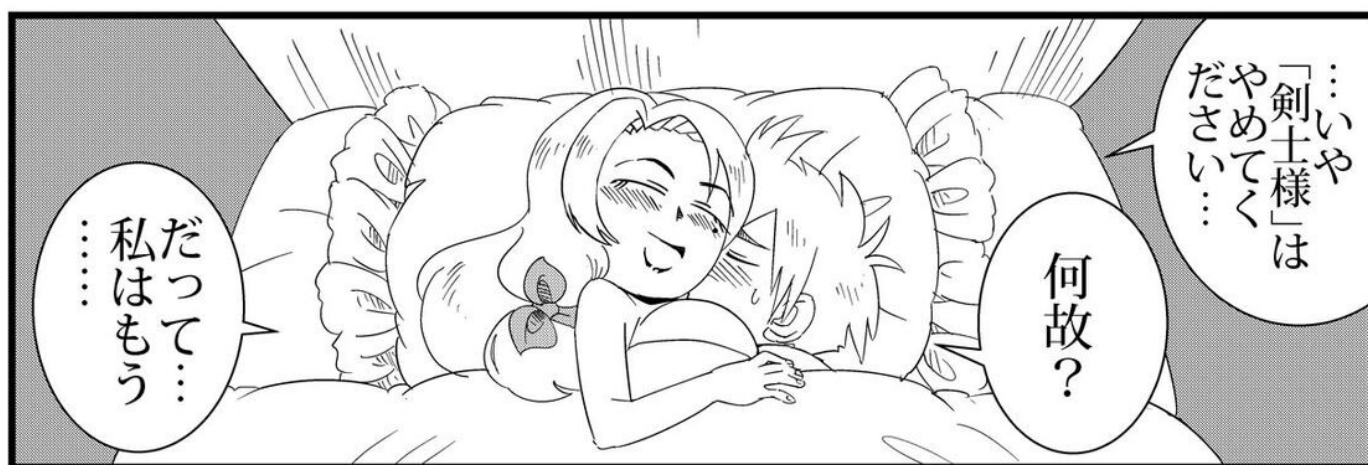




ああ：私の
剣士サマ：♡

ぬ
ぽ



「いや
「剣士様」は
やめてく
ださい！

何故？

だって：
私はもう



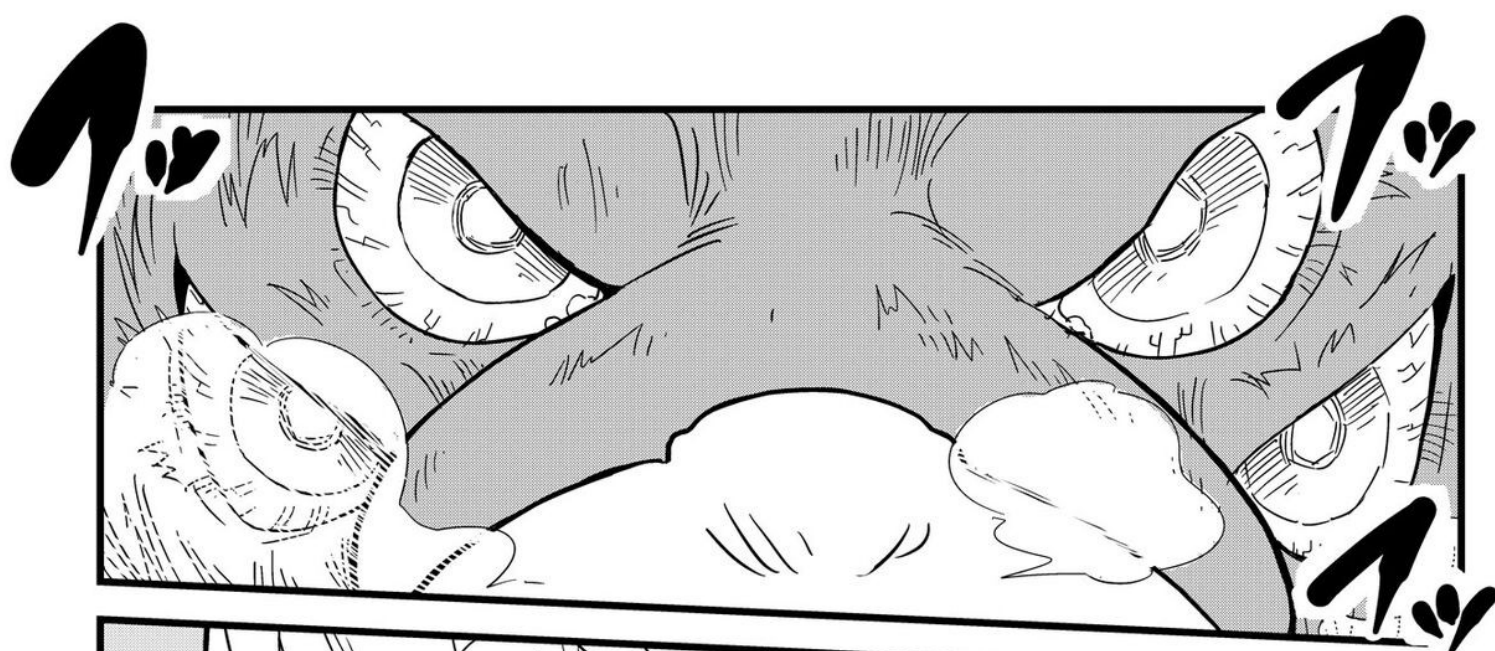
—この頃の私は
ここにきてからの
幸せな日々を
感じつつもまだ—

Under The Dragon's fear

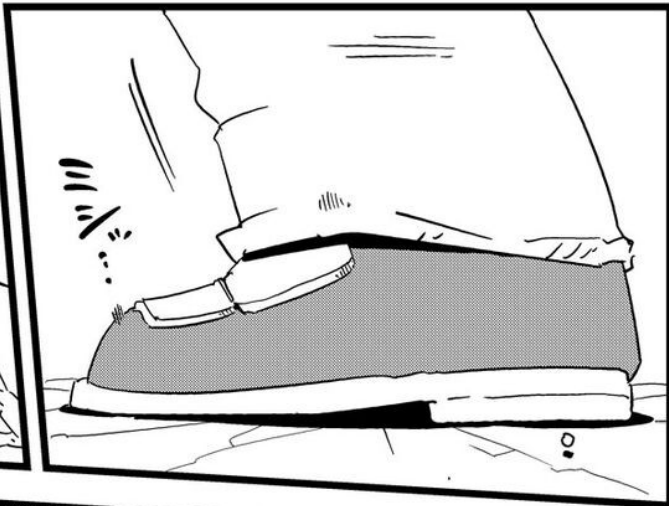
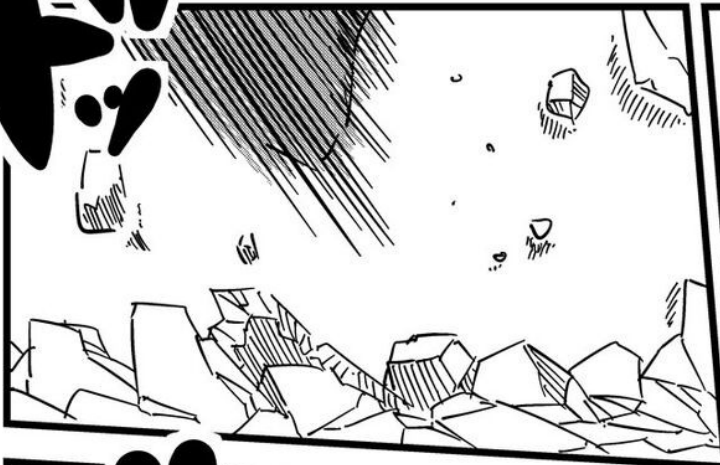
—竜退治の傍らで—

著：レトロ・クロス

罪悪感に似た
焦燥感に抱かれ
ていた：
まだこの頃は：



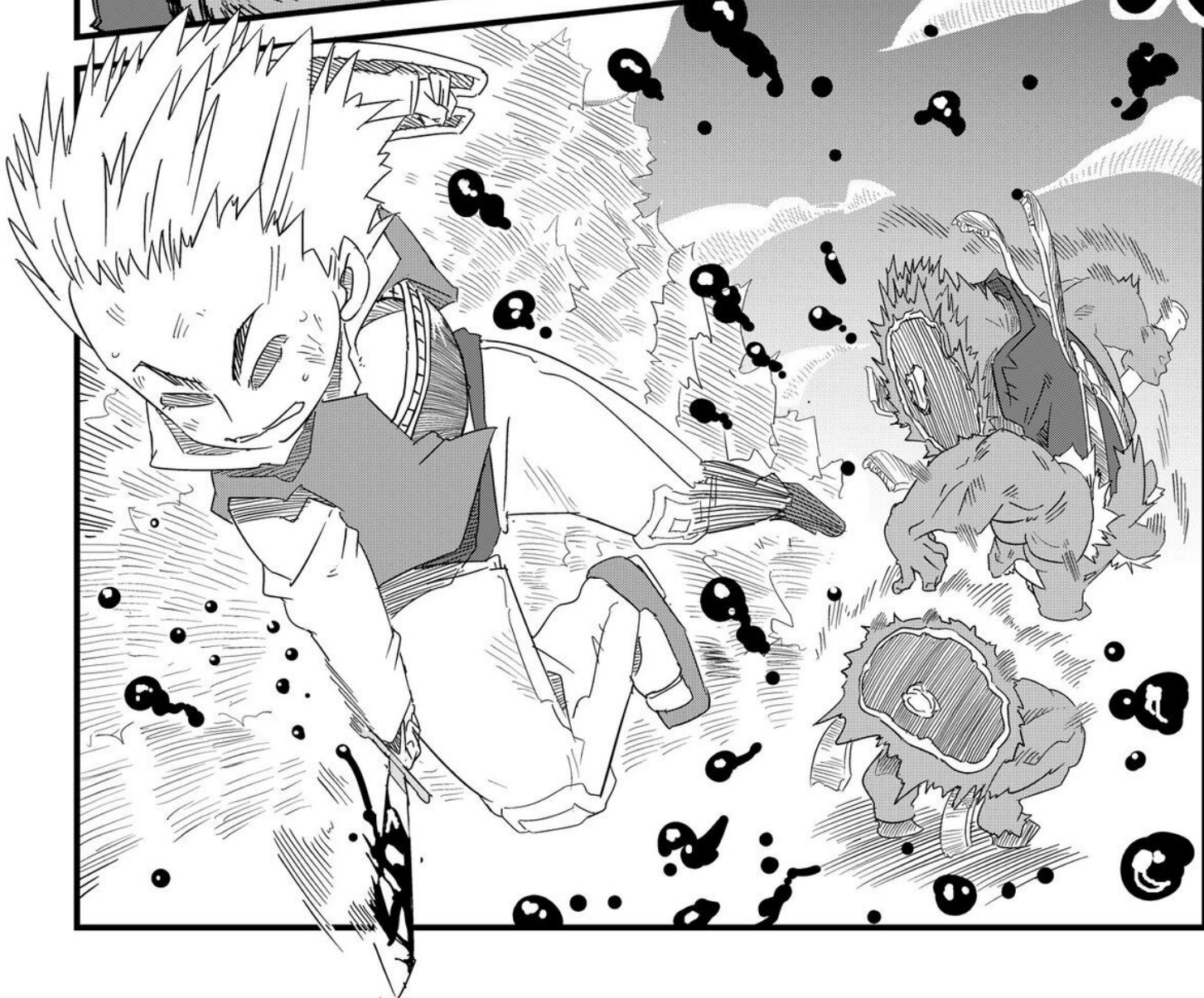
ド

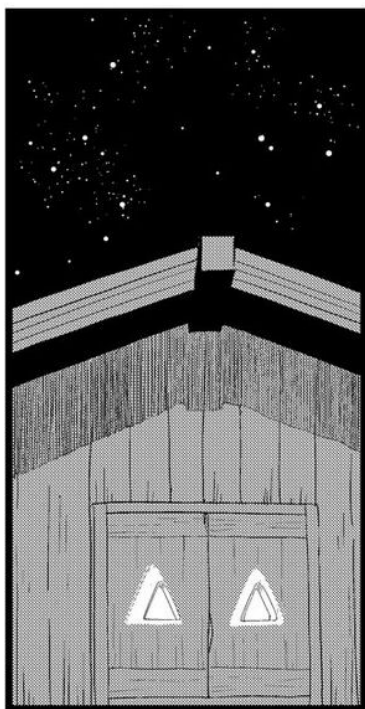
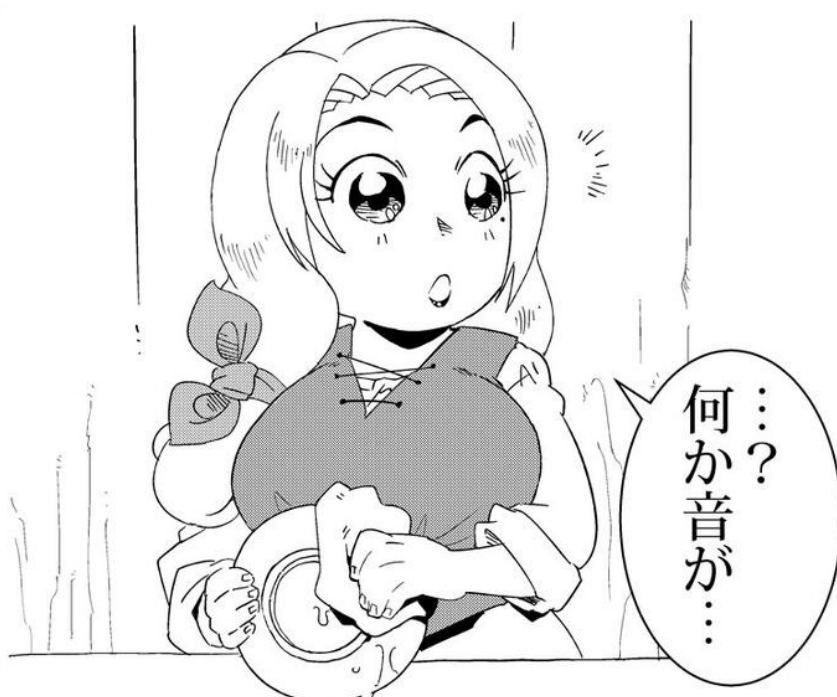
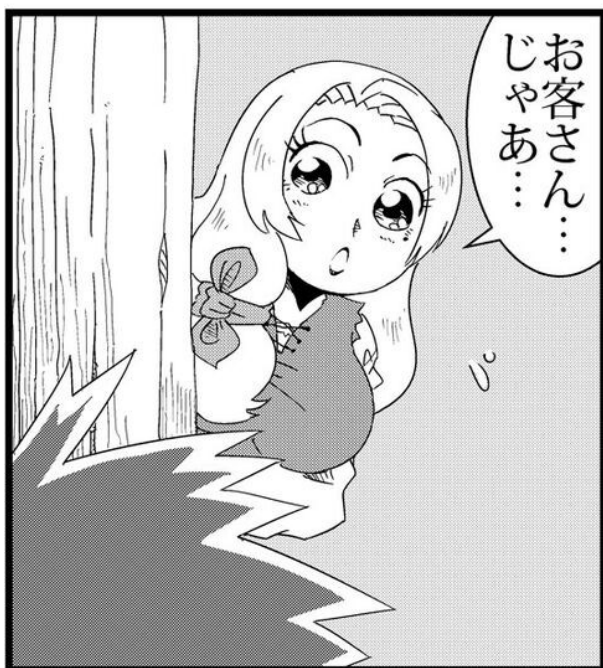
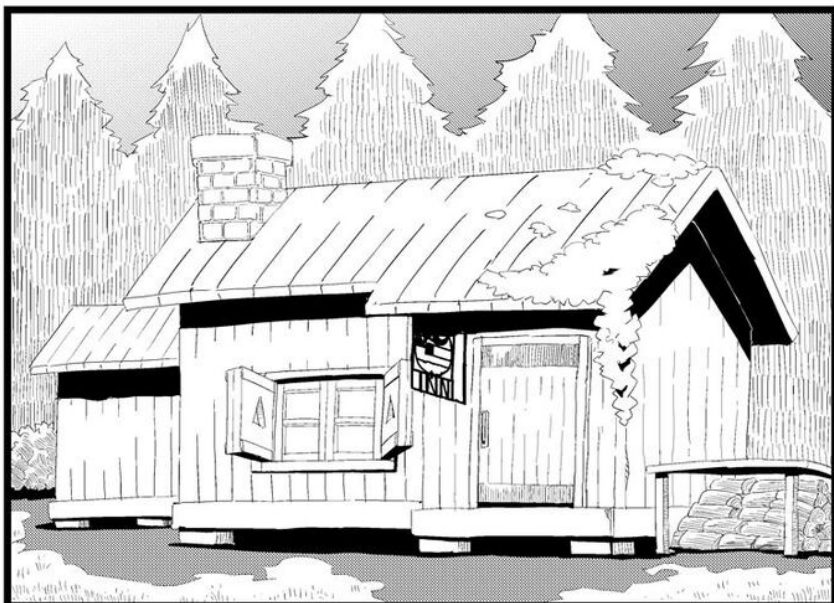
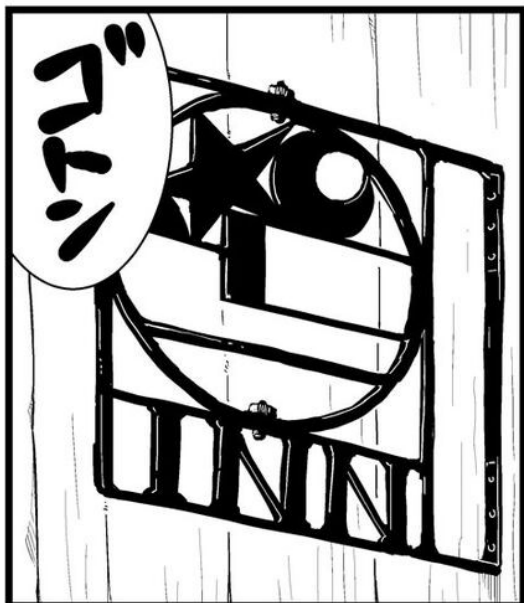


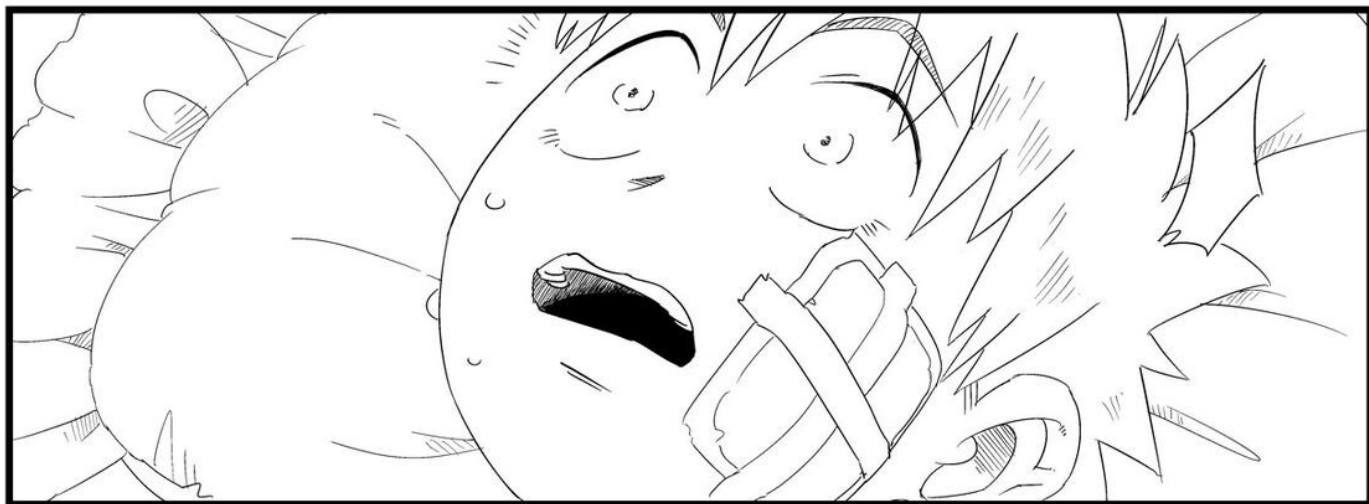
ガ

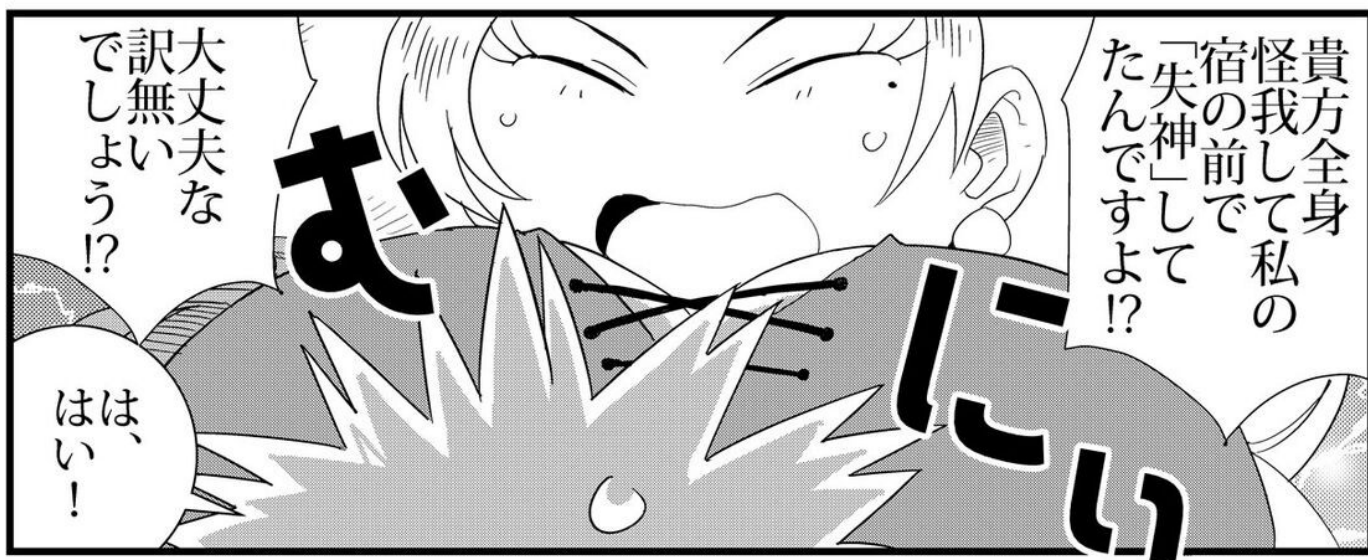
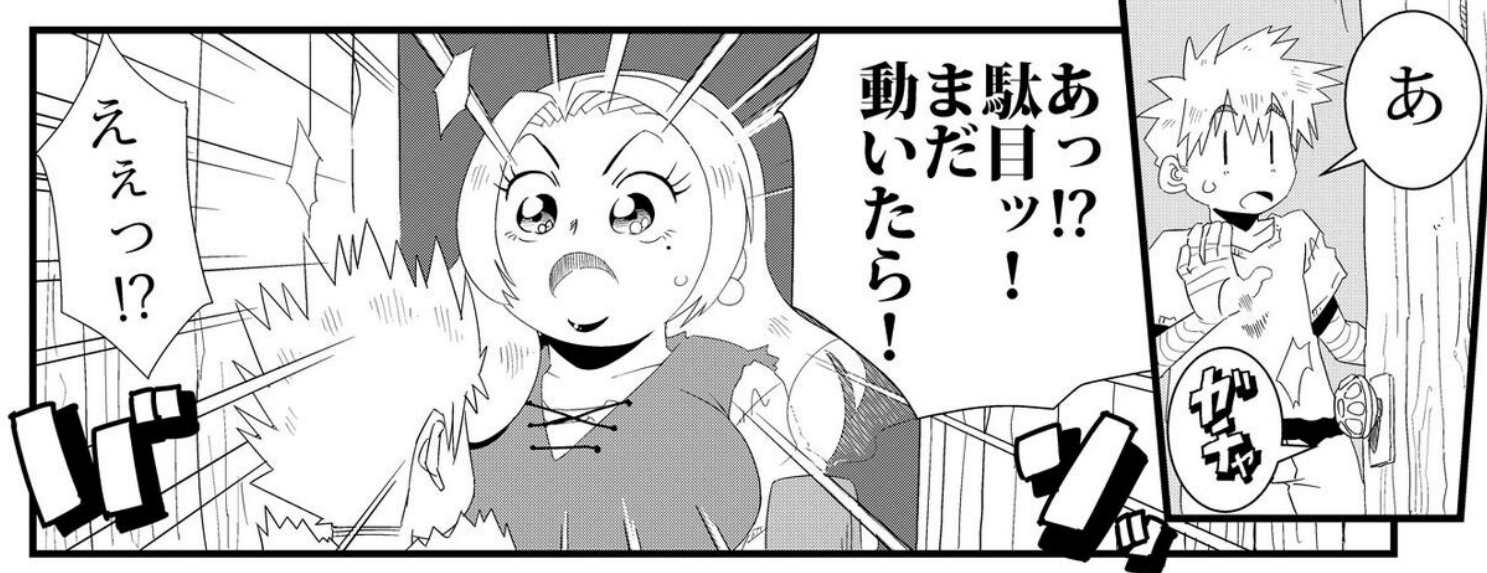


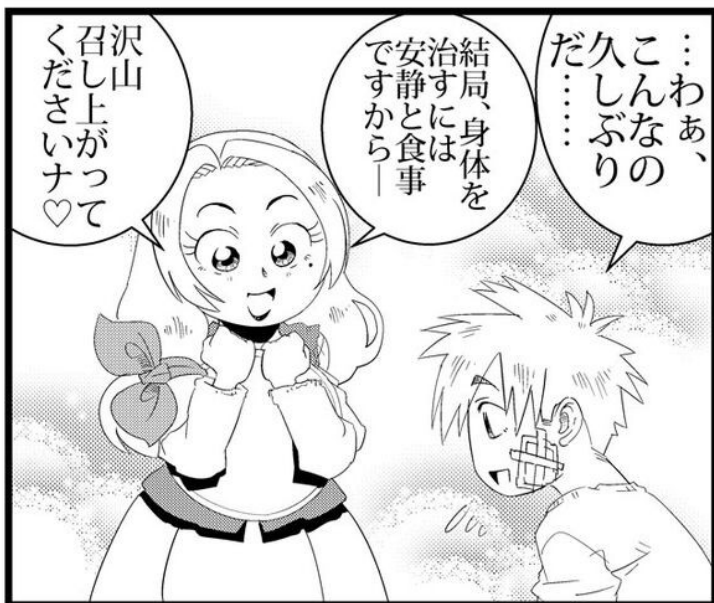
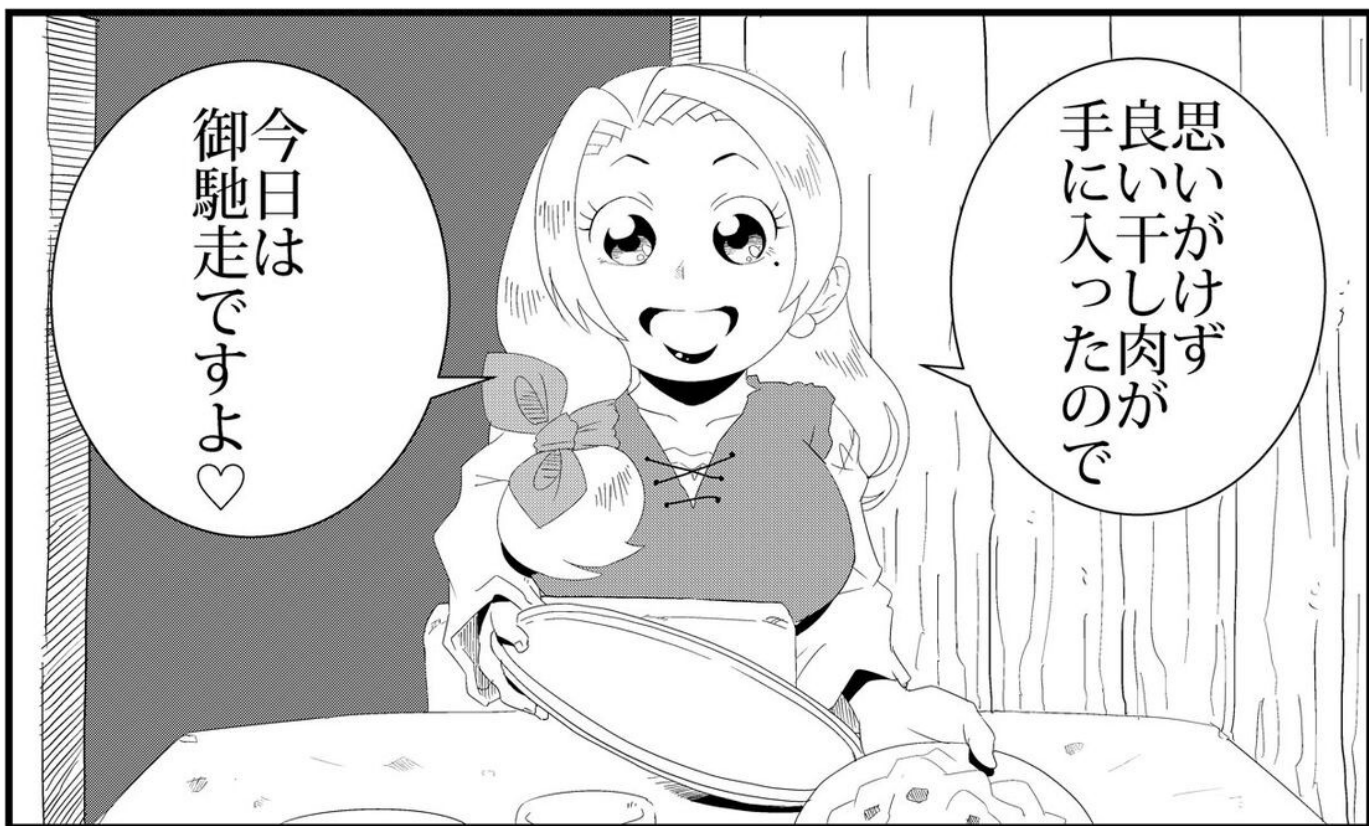
ッ

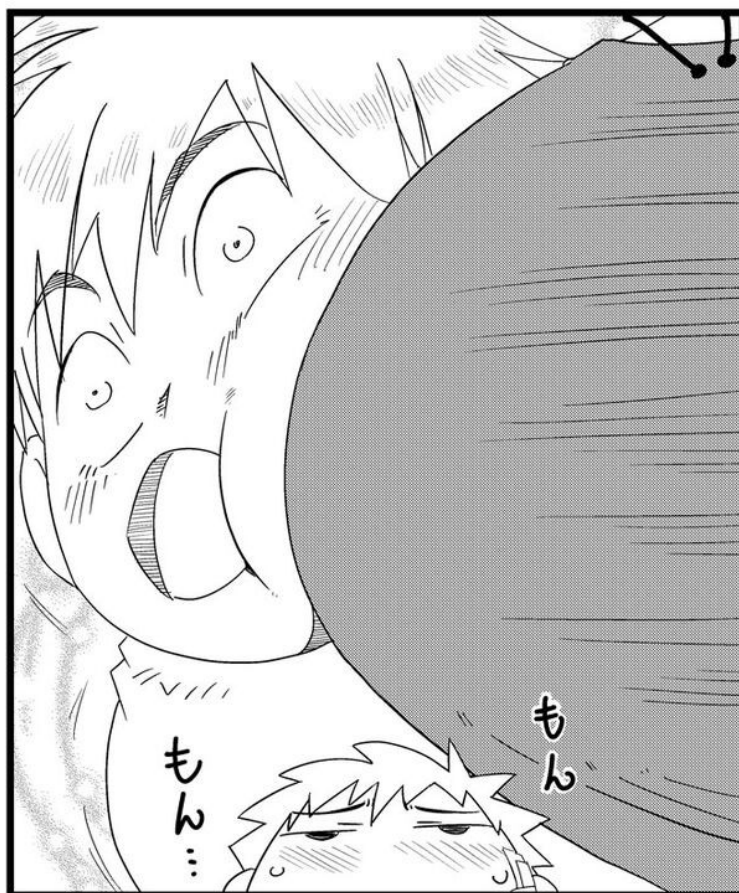
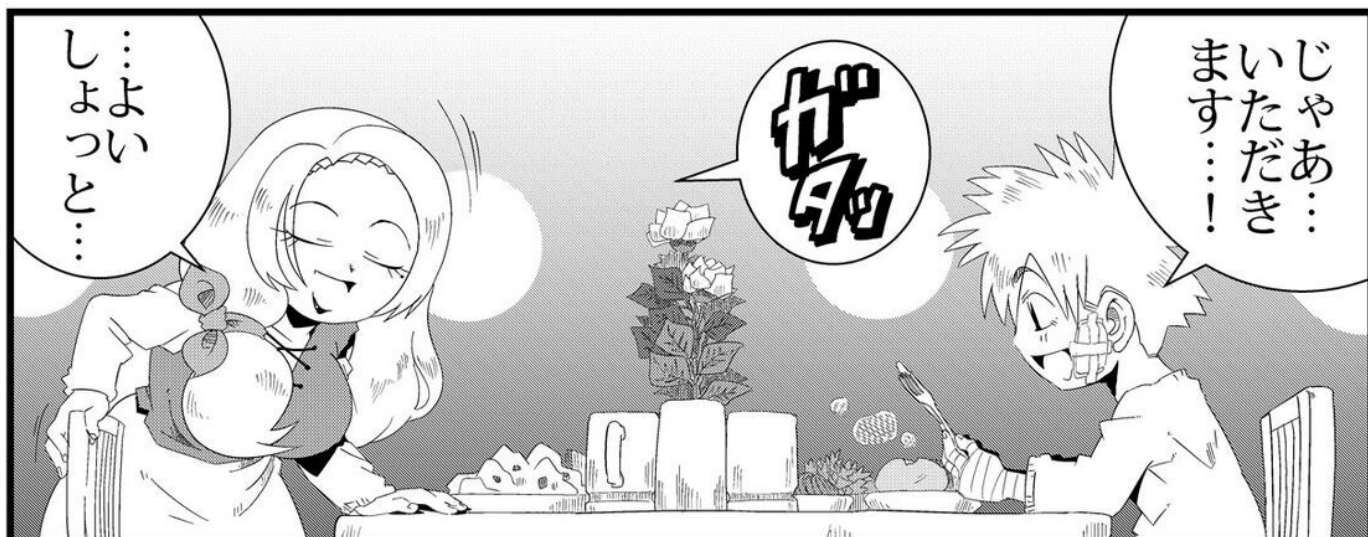


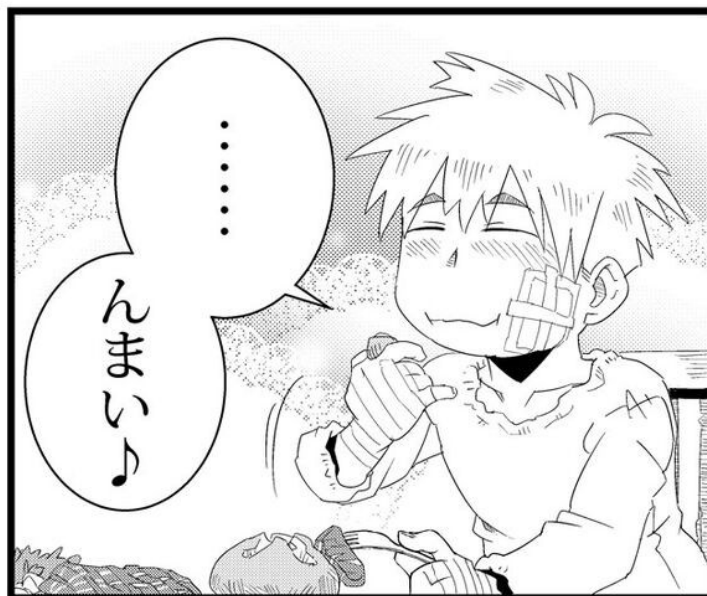
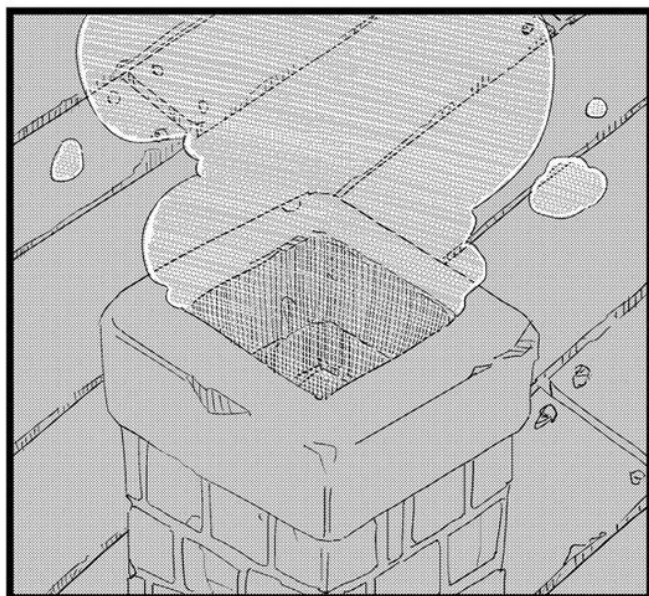
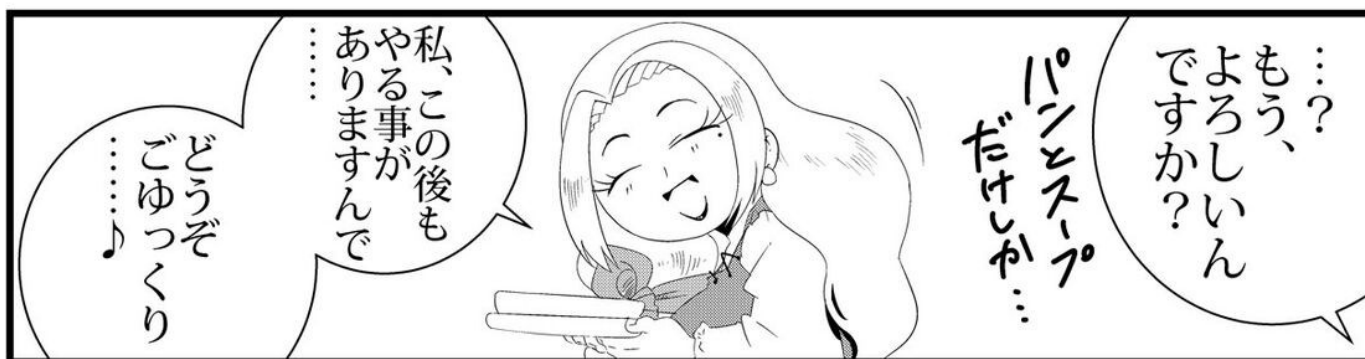
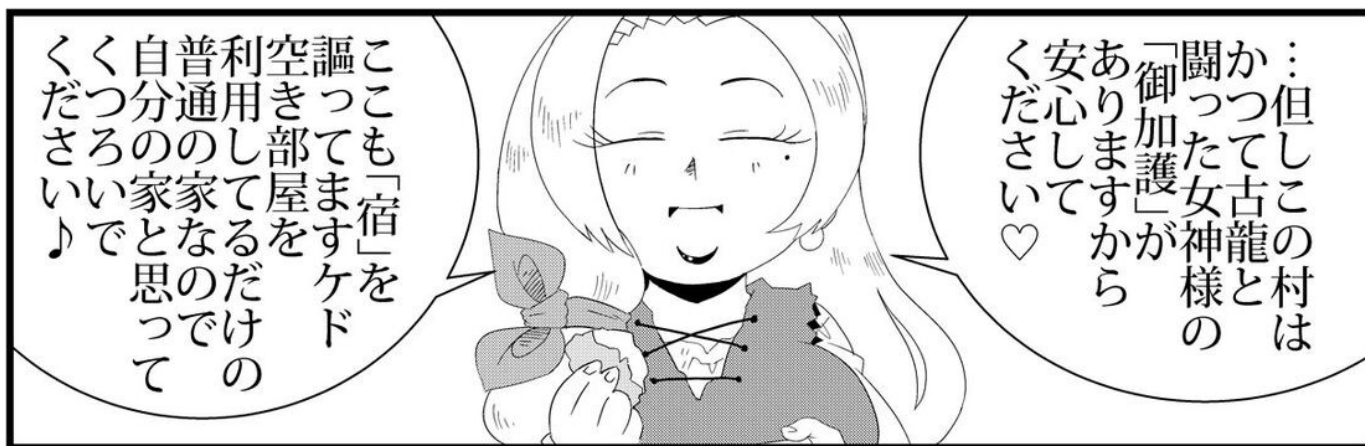
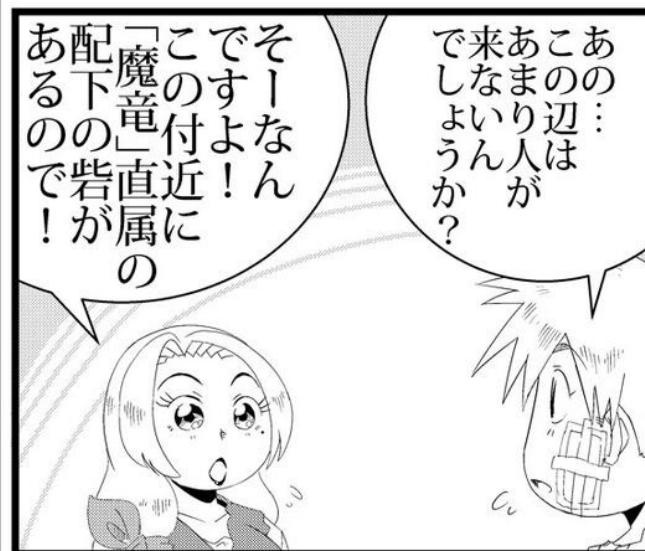


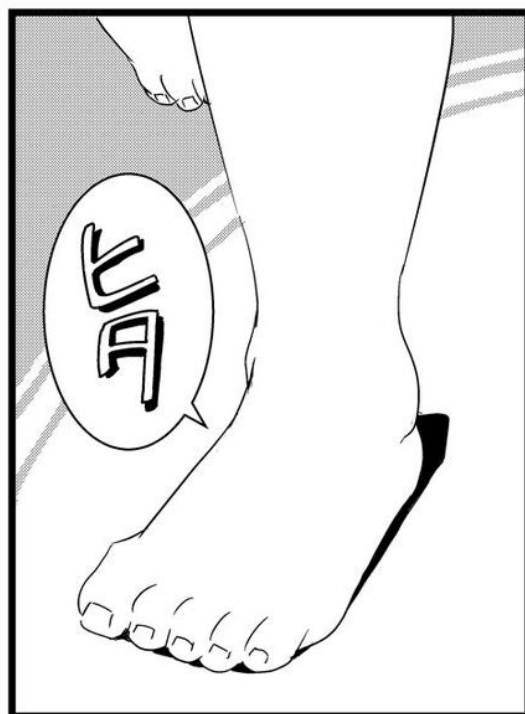


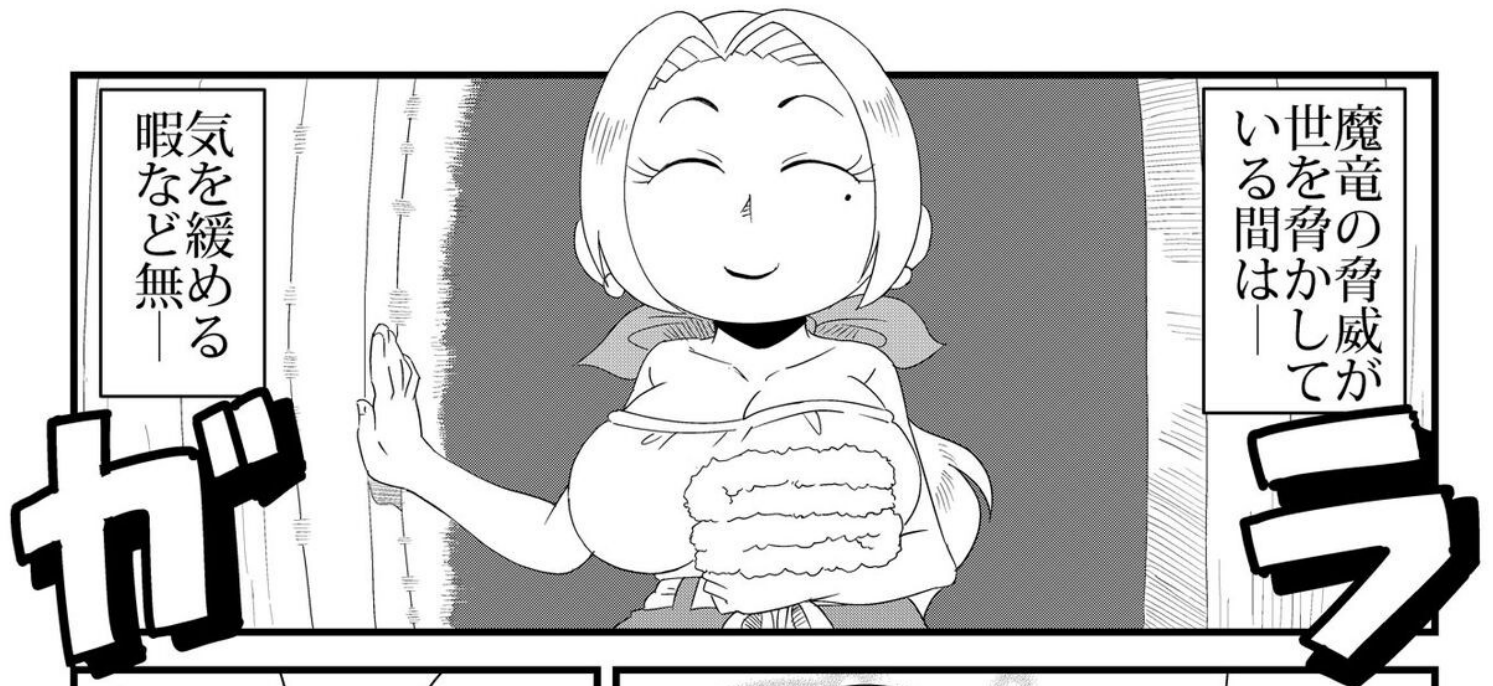












魔竜の脅威が
世を脅かして
いる間は――

気を緩める
暇など無――

えっ!?
ちよっ!!

お背中
流しましょう

あのっ…
その…!!

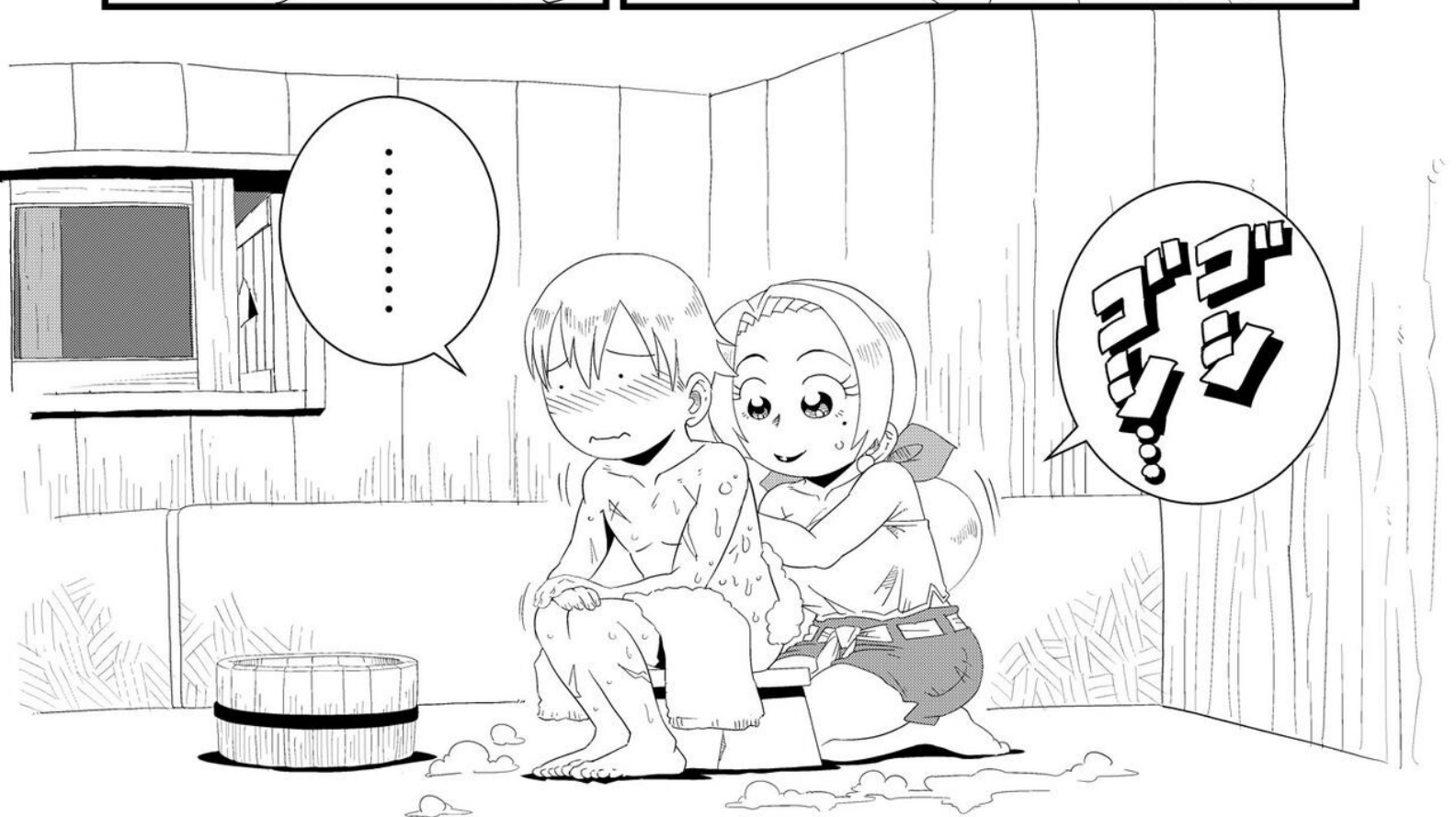
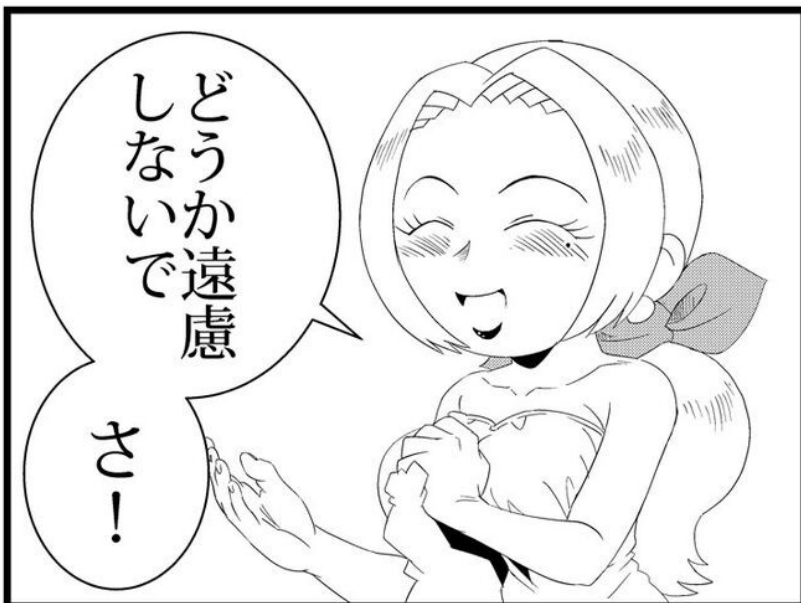
ふふ…
そんな慌て
無くて

主人や息子の
背中もよく
流してあげた
ものですから…

やぶさか
無かつた
是非させ
はださい
ナ

いや…

…そー
言われま
し
ても…



駄目ですよ……
傷が塞がって
見た目に治った
様に見えても――

身体に蓄積された
ダメージや疲労は
そんなにすぐには
回復しない

医療・魔法・薬で
行う治療は
あくまで対処
でしかなくて

根本的な
治療って言うのは
「栄養の摂取」や
「休養をとる」事
でしか出来ない

……お詳しい
ですね

それは
もう……

経験から
言わせて貰っても
焦って良い事
なんてありま
せんよ

……私の主人や
息子の様に……

それって
言うのは……
つまり……

ええ、
魔物討伐に
出て二人共
そのまま……

ご家族……
ですか？

亡くなった主人は
やはり貴方の様に
魔物の討伐を
して暮らして
いました

息子の誕生を
契機に一旦
家庭に落ち着いて
くれたのですが……

夫とは
同じ討伐隊で
知り合い
ました

偶然何度か
一緒にする機会を
経て意気投合
してそのまま――

元々身体がもう
ボロボロだったと
漏らしてた
事もあり子供を
授かると庭に
小さな畑をこしらえ

木こりの仕事を
して長く
家に落ち着いて
くれる様になり
ました

けれど子供が
大きくなると
「家族が安心して
暮らせる世界に
したい」と言って
彼は剣を携え再び
旅立ちました

――そんな彼が
赴いた魔竜討伐から
亡骸になつて家に
戻つてきたのは
そのほんの
僅か後でした：

そして息子も又
大きくなると
「父の仇を討つ」
と旅だつて
行きました

本来「闘争向き」
でない性格を
知っていた私は
全力で止めたけど
……

……ですから……ね？
先ずは身体を
治しましょう？
宿代の事は気に
しないで
良いですから……

……はい……

俺だつて生活早く
こねたい……が、
離れたい……が、
魔竜に怯えながら
暮らして続けるんだ
もつとウンザリだ

おかみさんの
心遣いは
暖かいけど俺は
こんなトコで
立ち止まる
訳にはいかない

——とは言え

宿代少し多めに
置かせて貰って

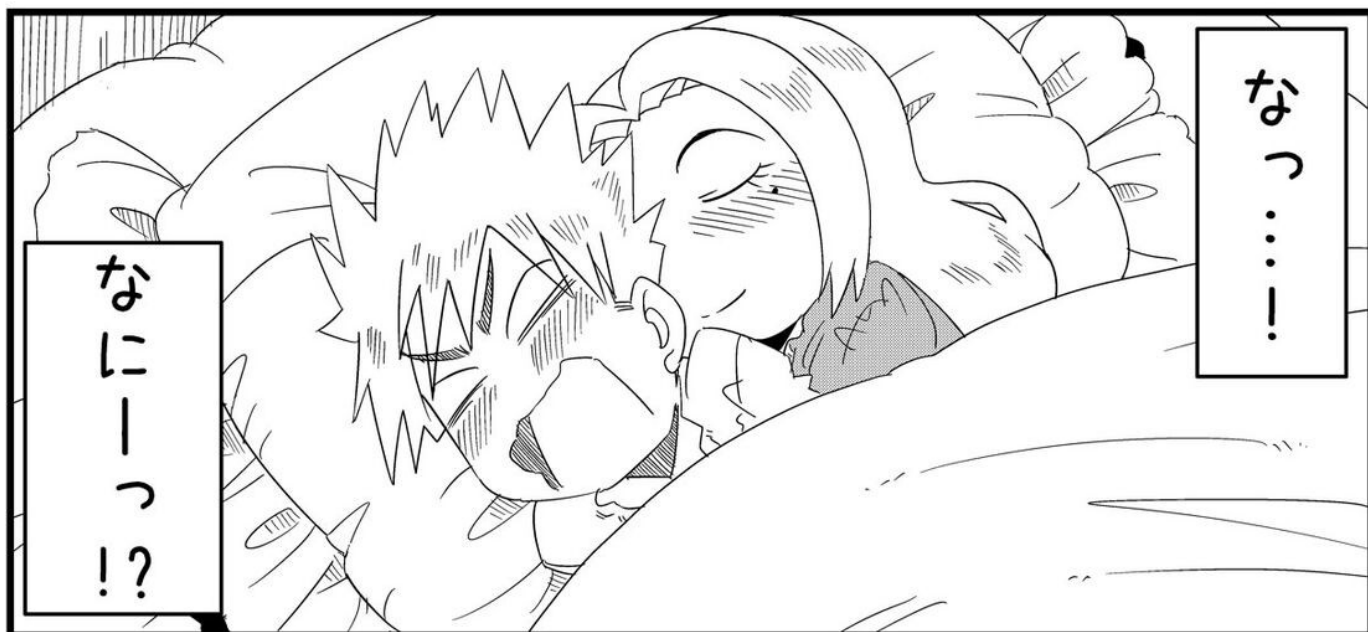


日が昇る前に
静かに此处を発つ

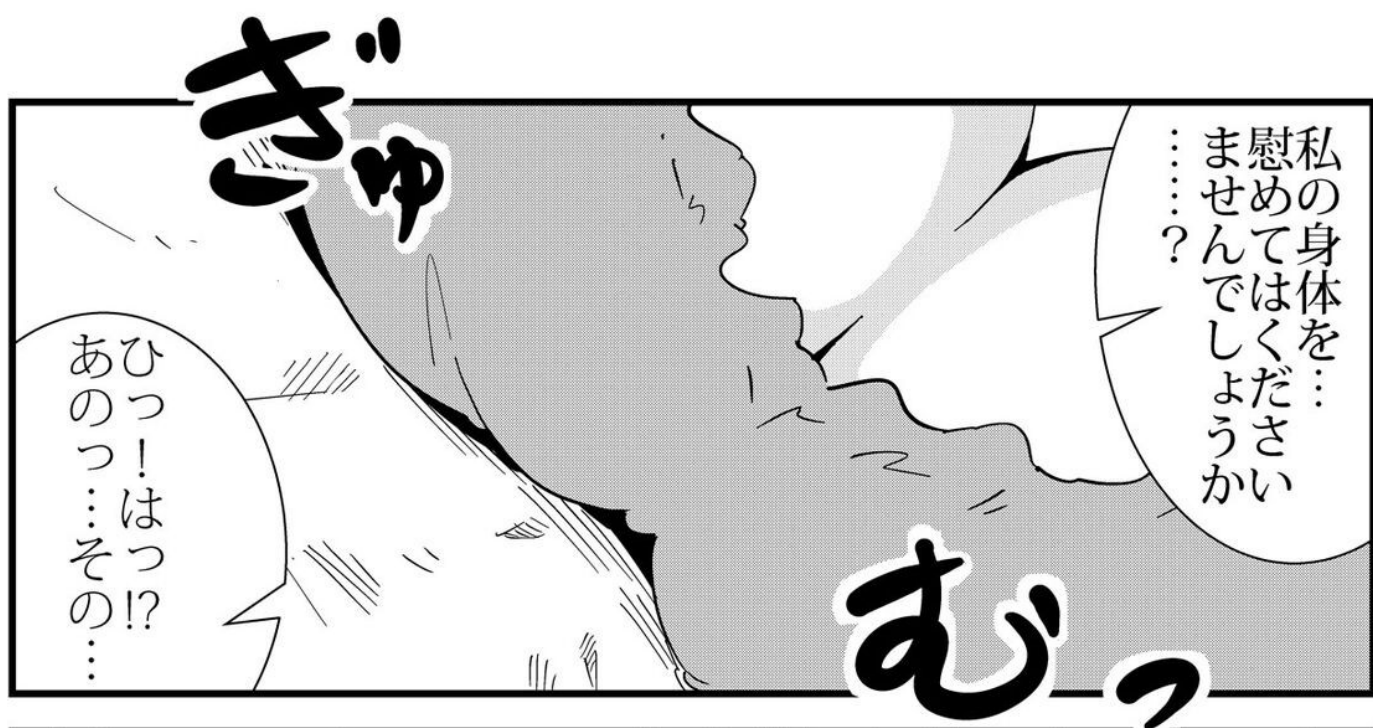


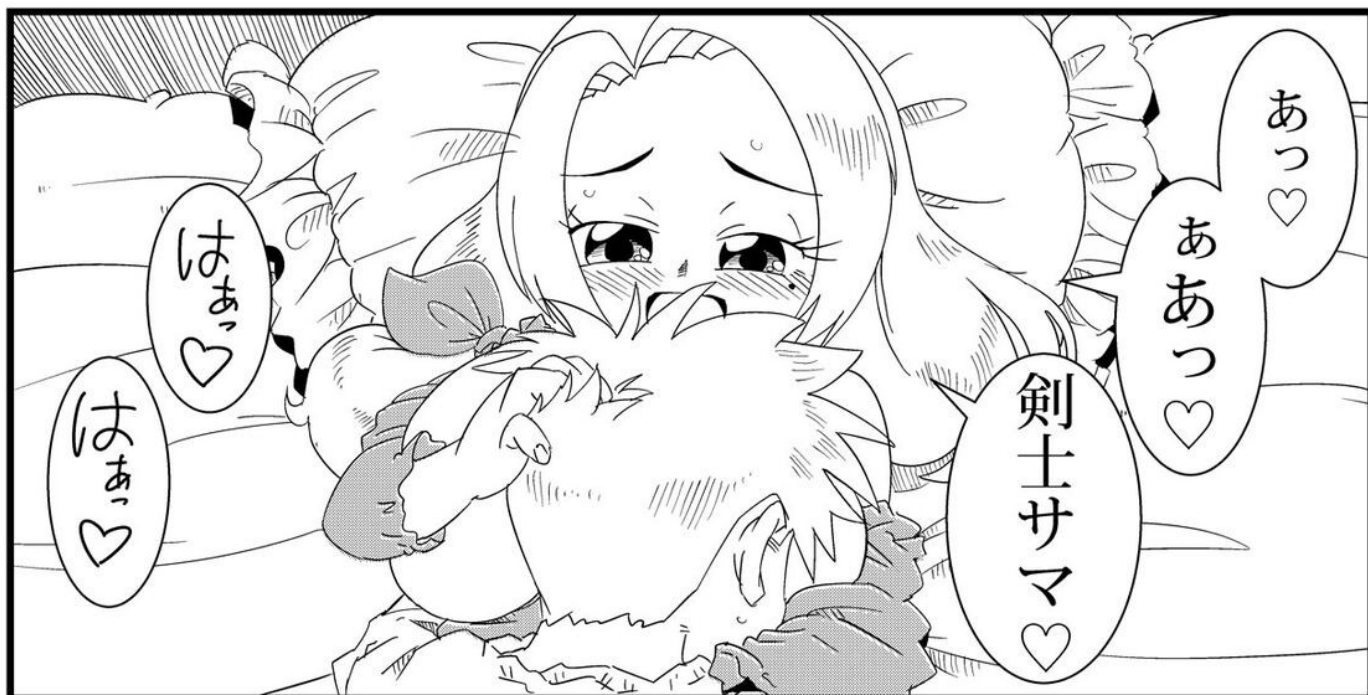
…
ん
…

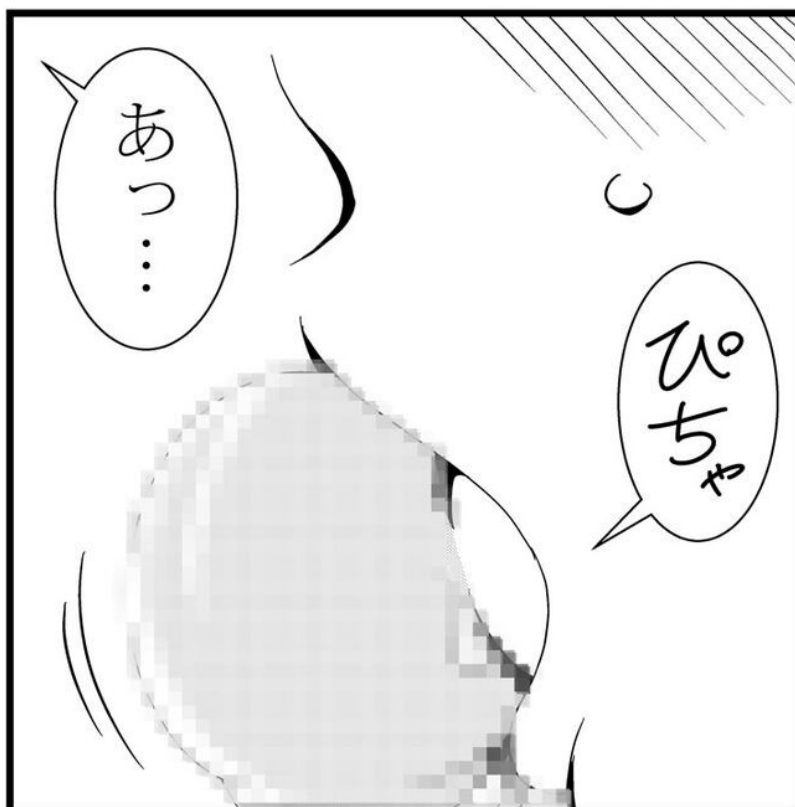
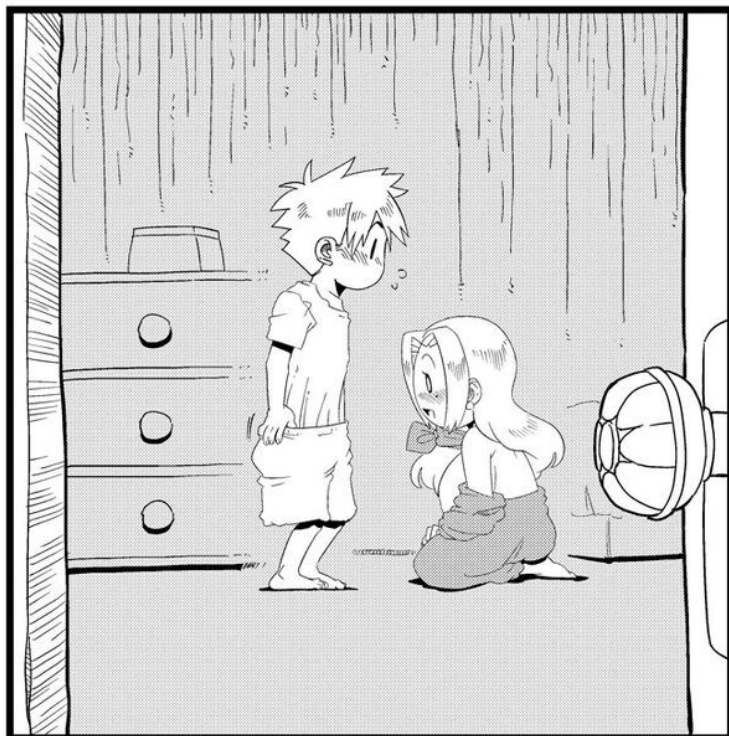


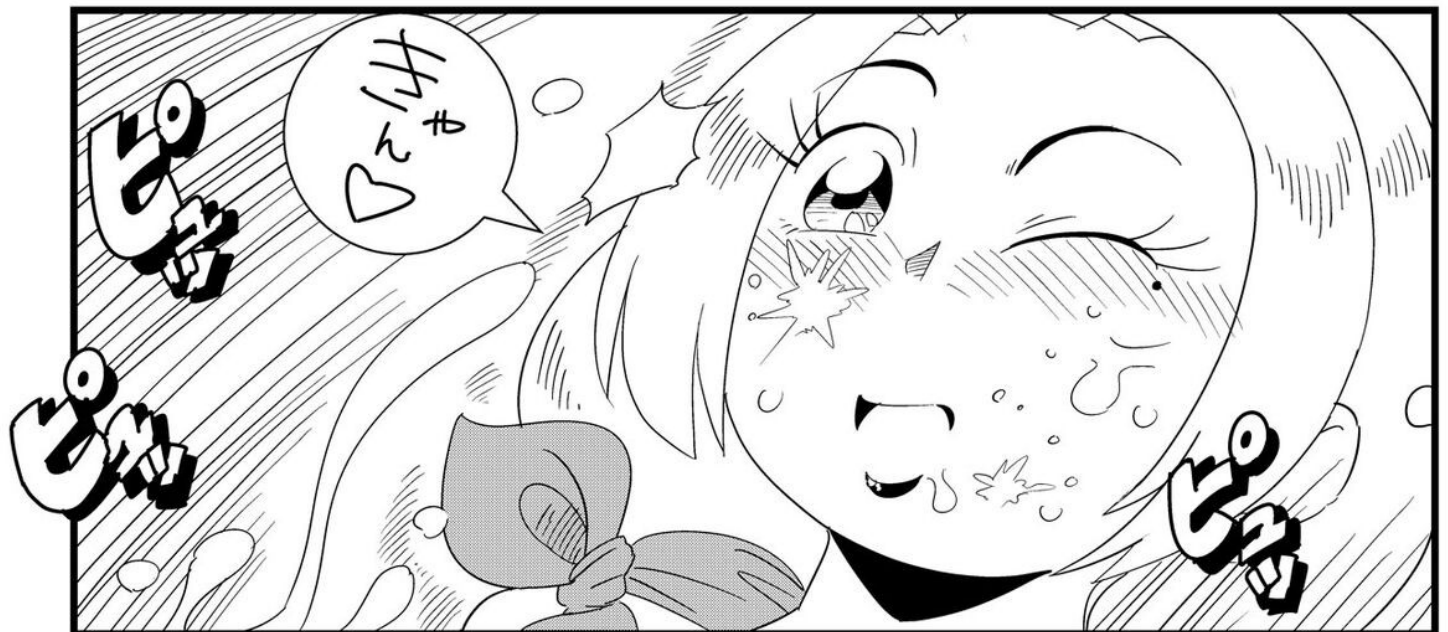
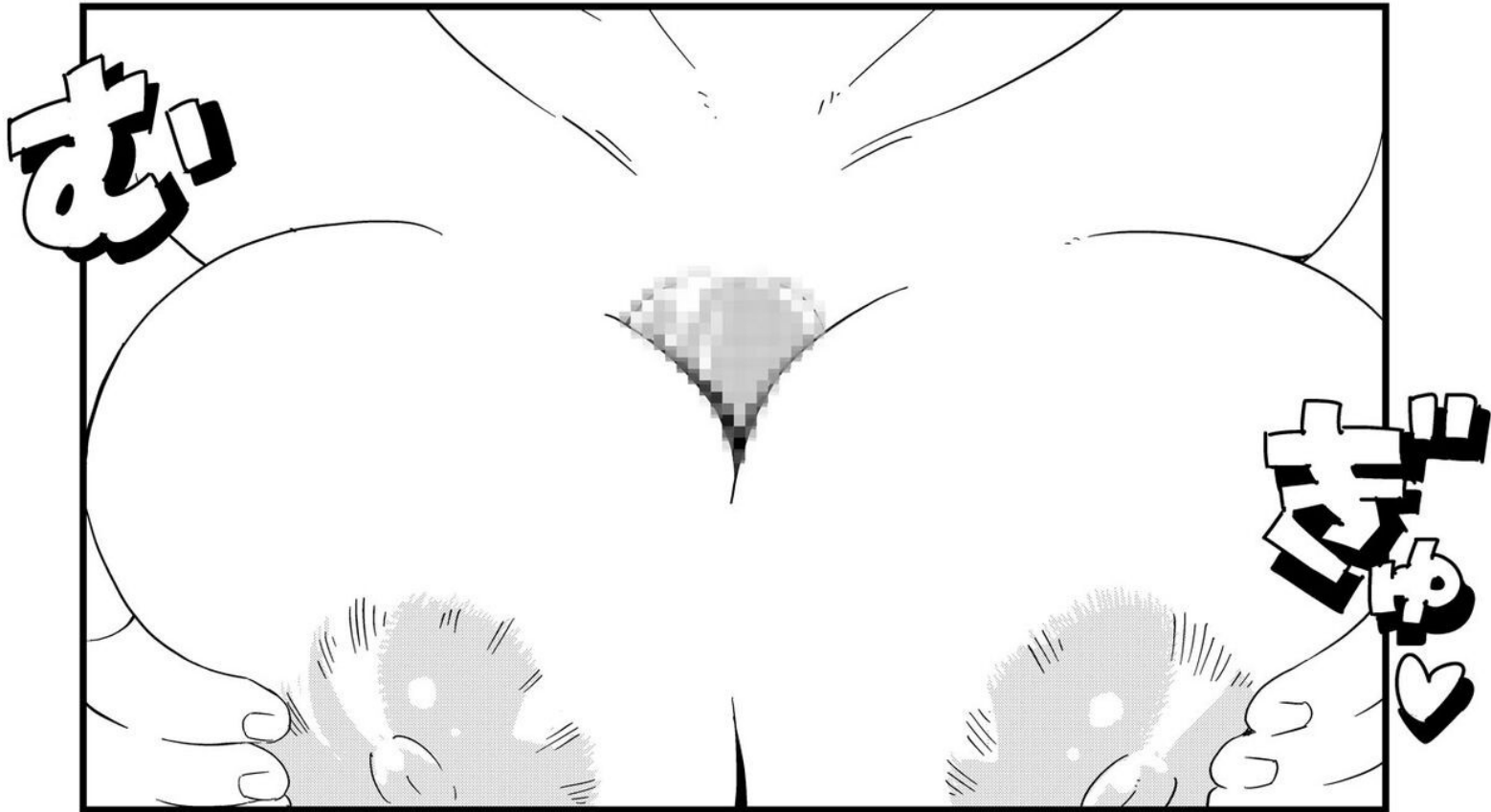














いいんです…
謝らないで♡

ごっ!ごめん
なさい…
我慢
出来無くて!



…あ…
いっぱい…
うふふ若い
のネ♡

はあ♡

はあ♡

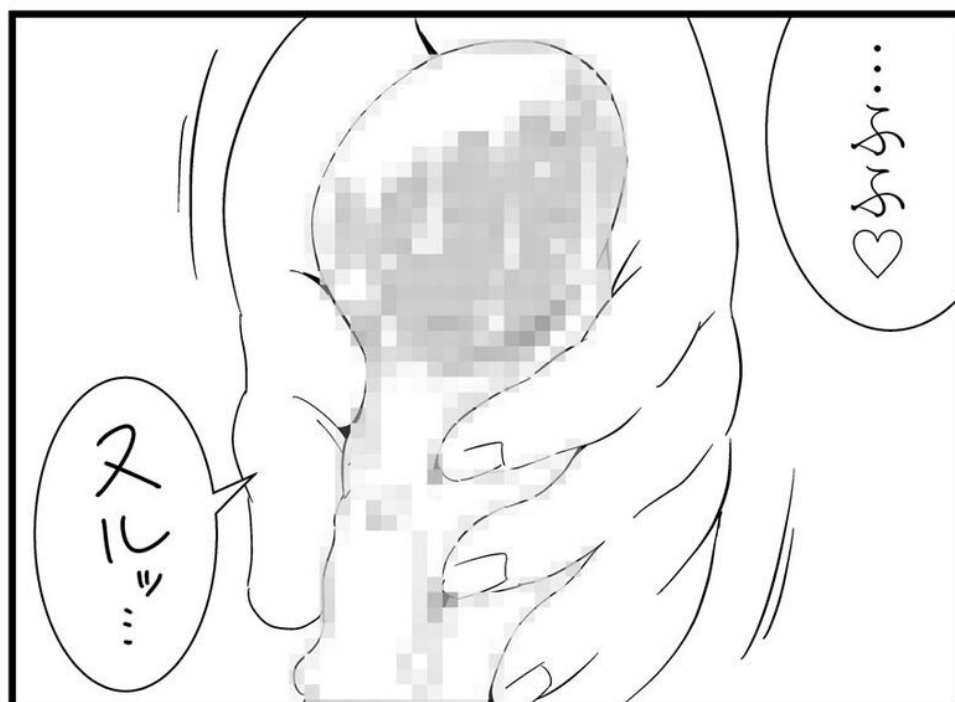


…それより
まだ、
こんなに…♡

おかみさんの
肌が柔らか
過ぎて…

嬉しい…♡

ジュッ
ジュッ



…ふふ♡

ヌルッ…



あの…
そろそろ
良いですか…?

え…
あ、はい!

あの…重く
ないですか？

いえ全然…
そのまま身体
預けて
ください…

ズズズ…

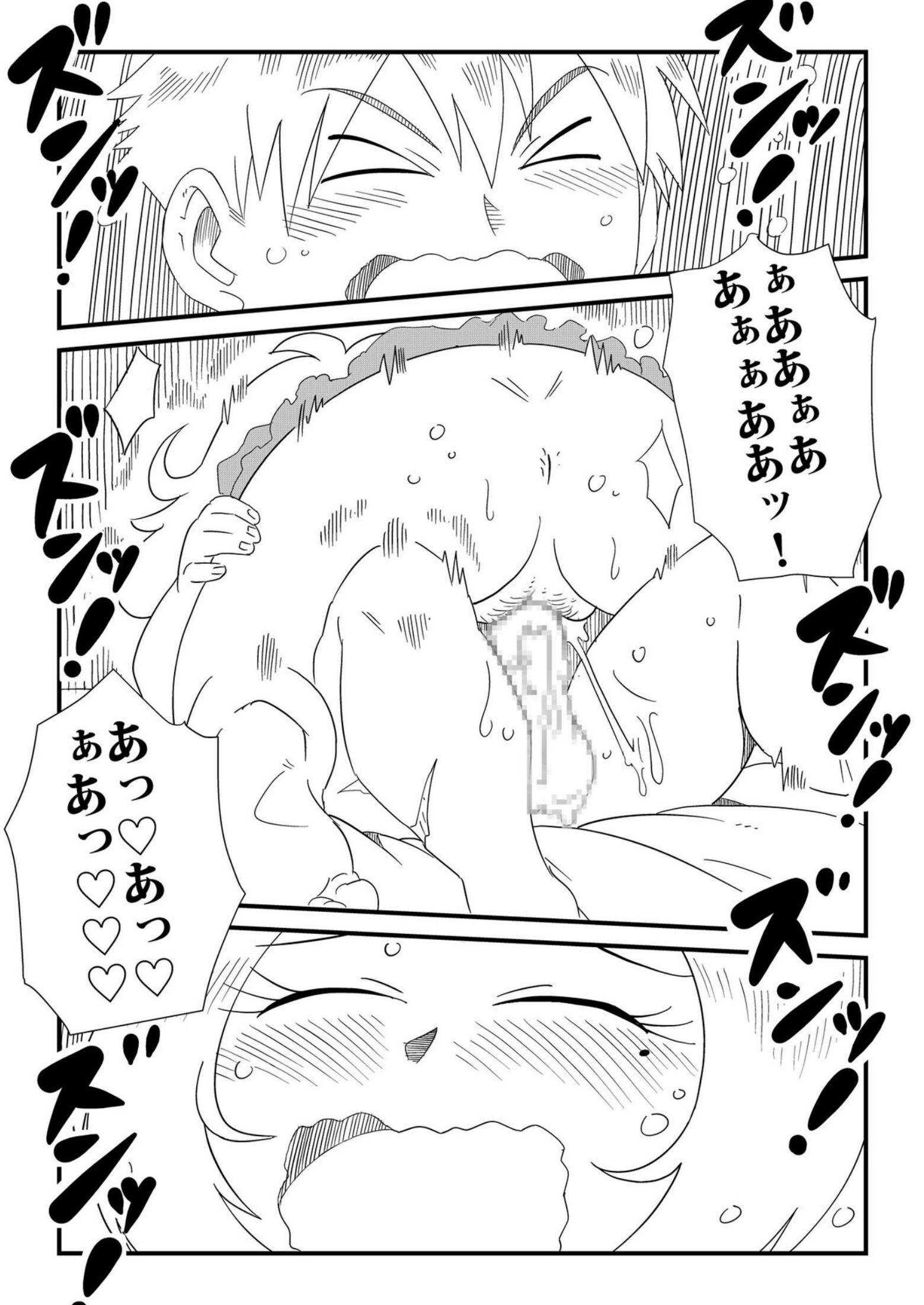
…あ…

ああ…♡

はあ…
はあ…
はあ…
全部入っ
ちゃった♡

おかみ
さん…





ドンッ!

ドンッ!

ドンッ!

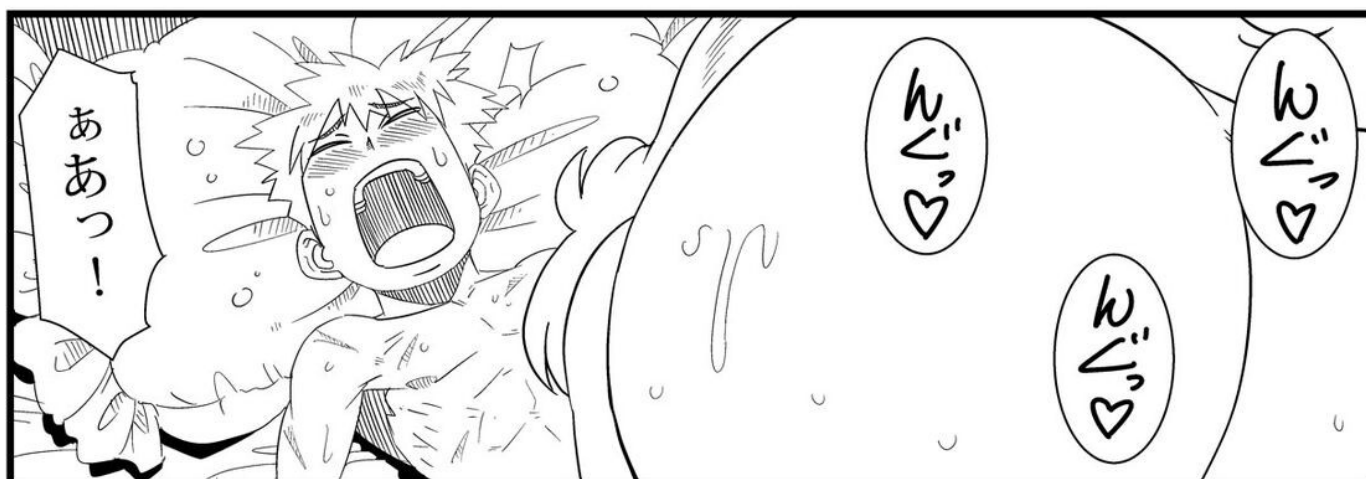
ドンッ!

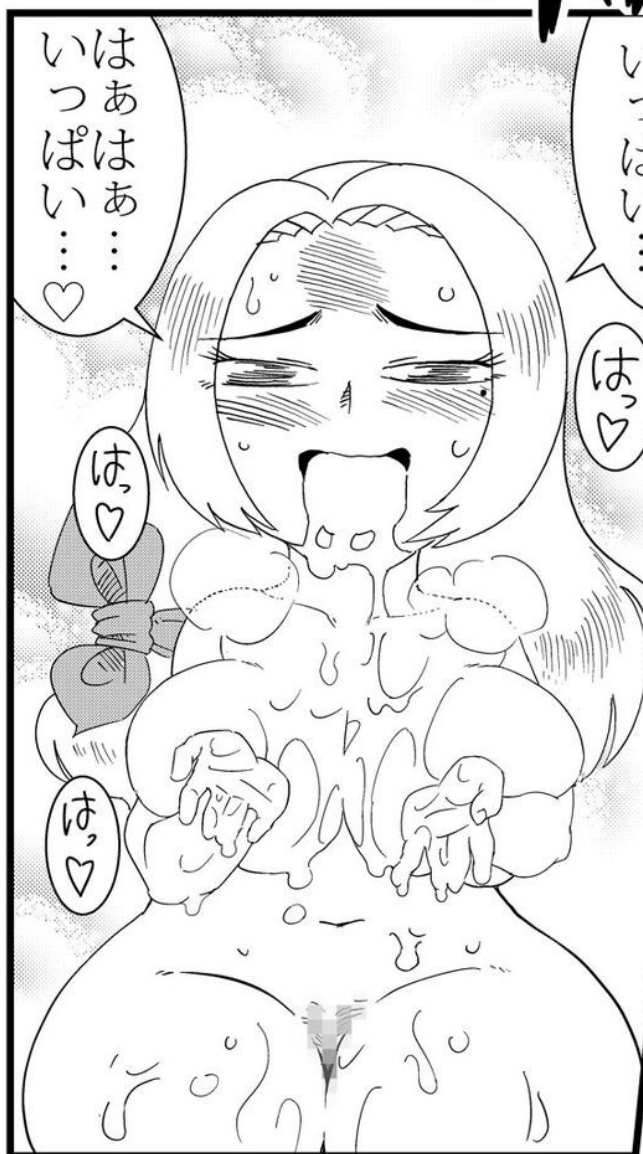
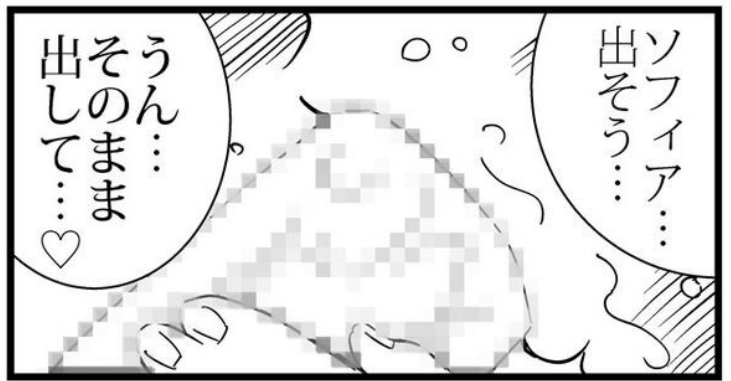
ドンッ!

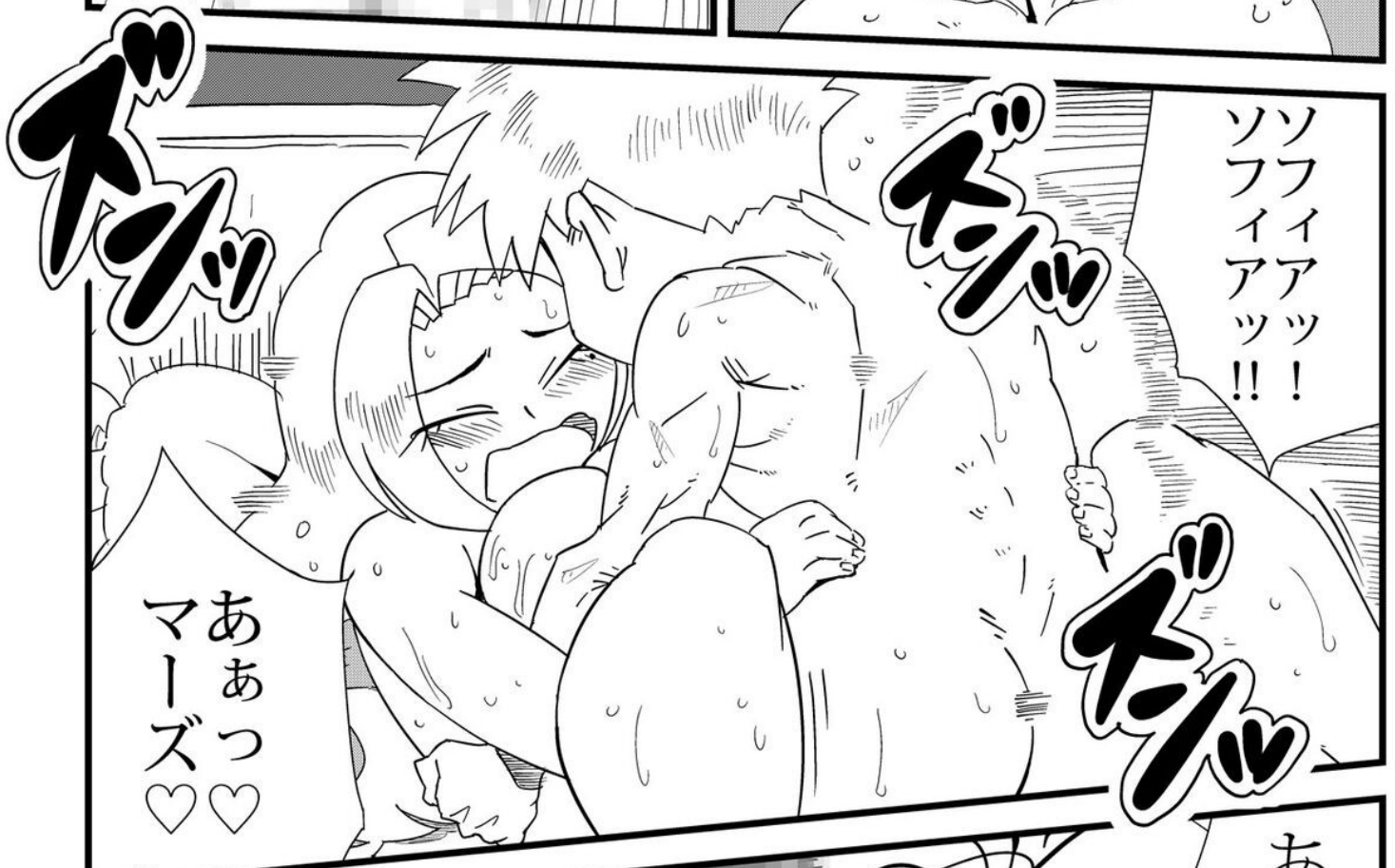
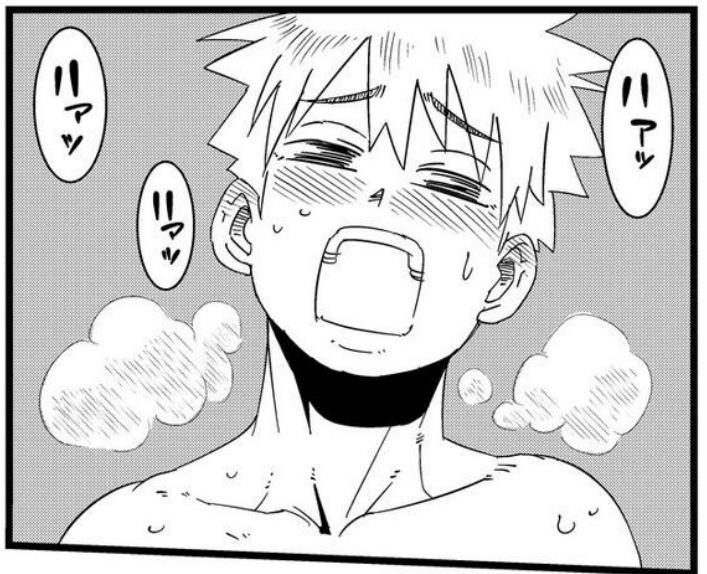
ドンッ!

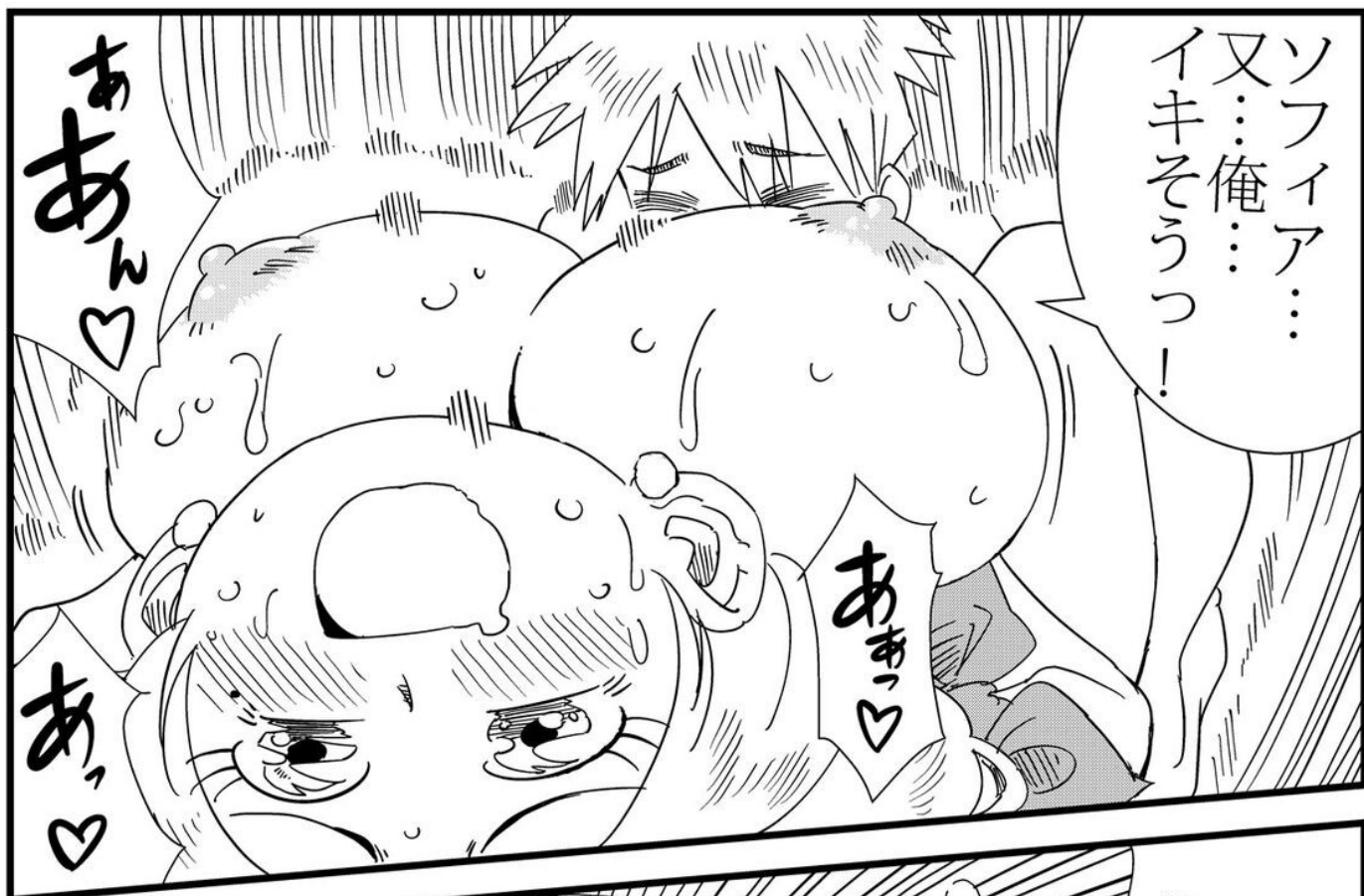
あああああッ!

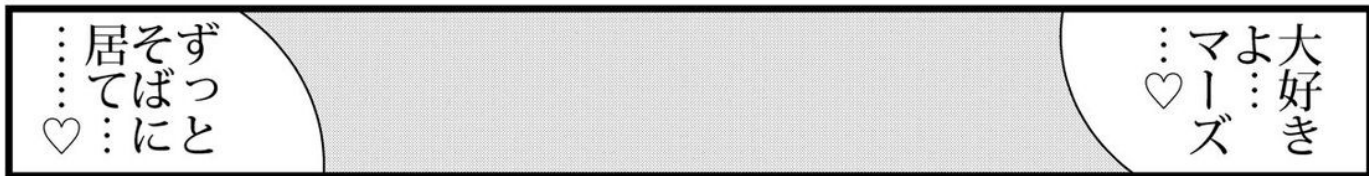
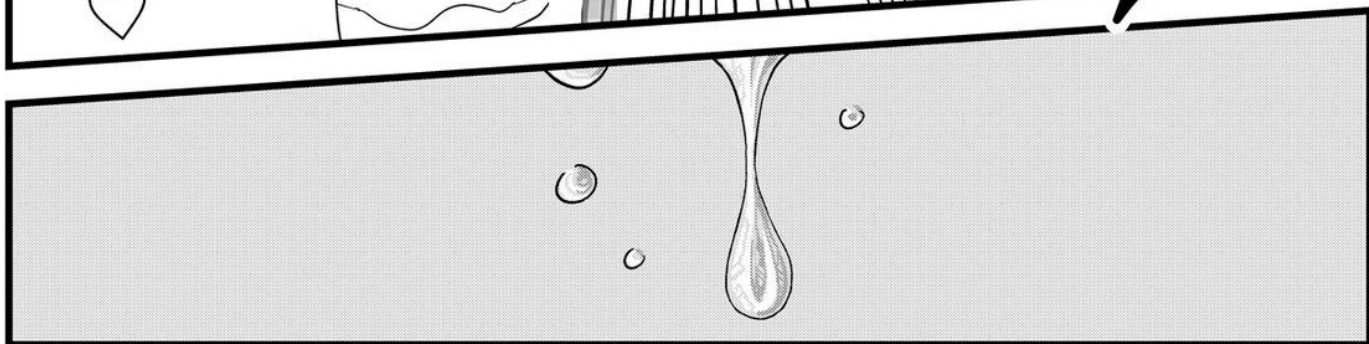
あ♡♡♡♡♡











その後…

じゃあ…
行ってくる！

此処での滞在を
一日と延ばして
居る内に私は
この家この村の
住人になった

ソフィアは快く
受けてくれた
私の「妻」に
なってくれた
今思うとあの晩

「死に急ぐ」私を
引き留める為に
彼女はあんな強引な
手段を試みたの
かもしれない

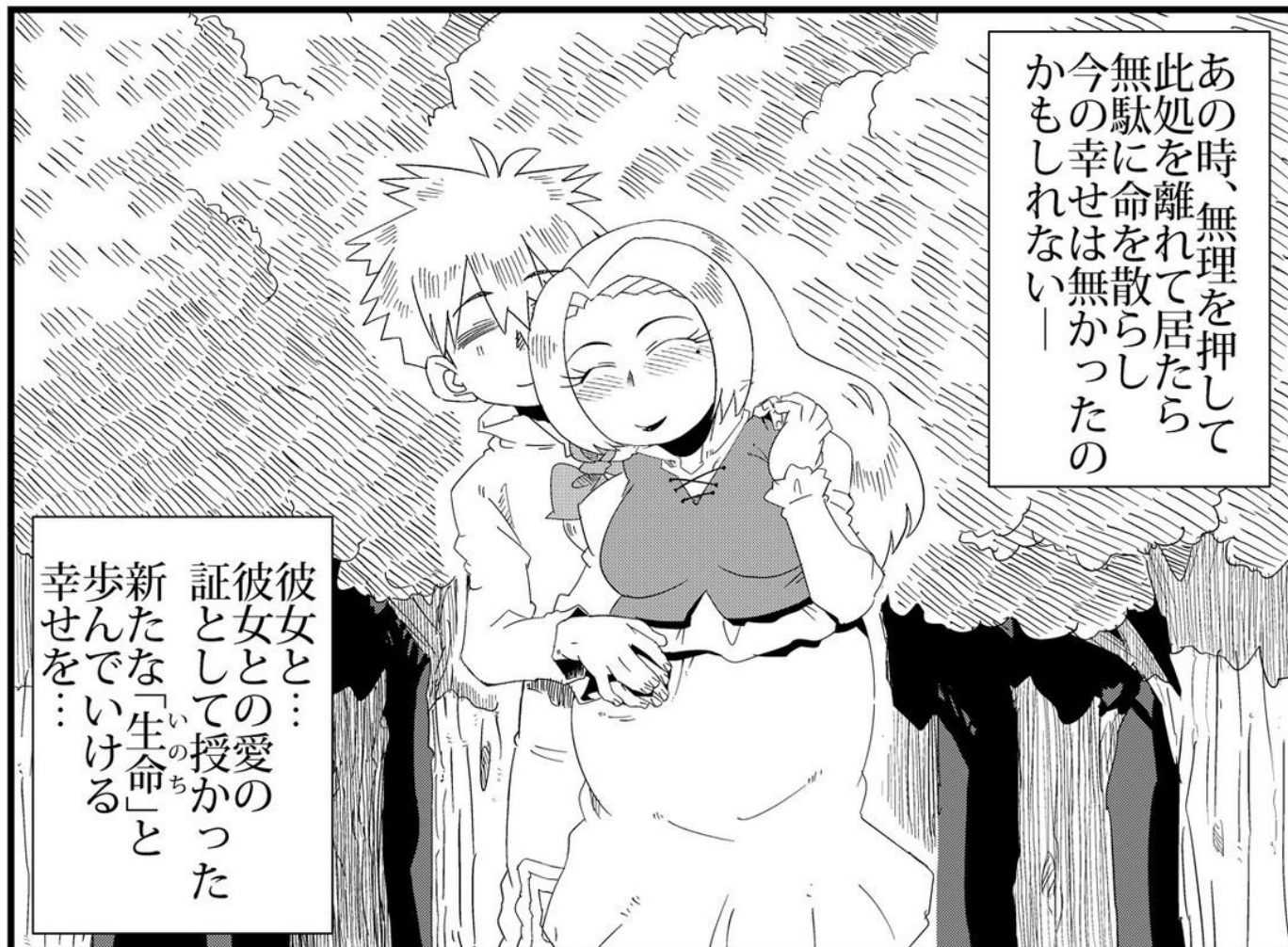
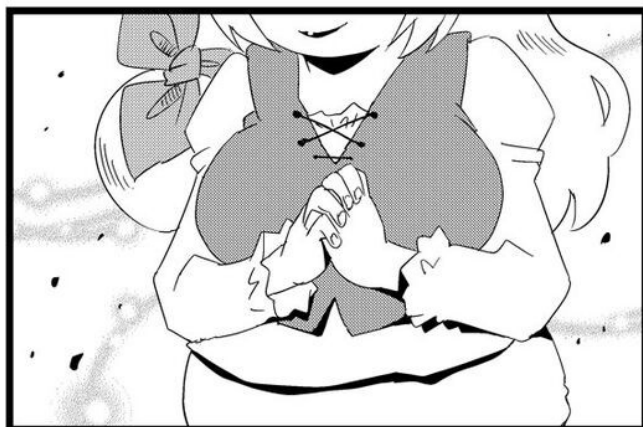
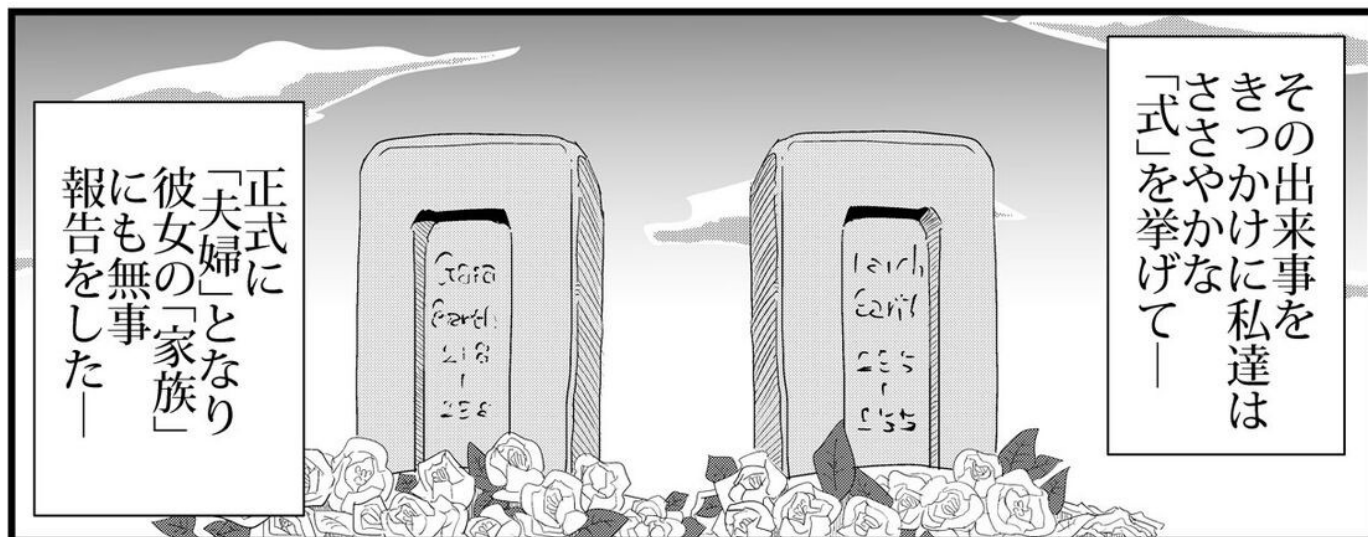
今となつては
知る術も無いが
彼女の居ない
人生等あり得ない
今の私にはもう
どちらでも良い…

—とは言い器用に
剣士としての
生活を切り離せた
訳でもなく半々の
気持ちで暮らして
いたある日—

魔竜が
死んだ—

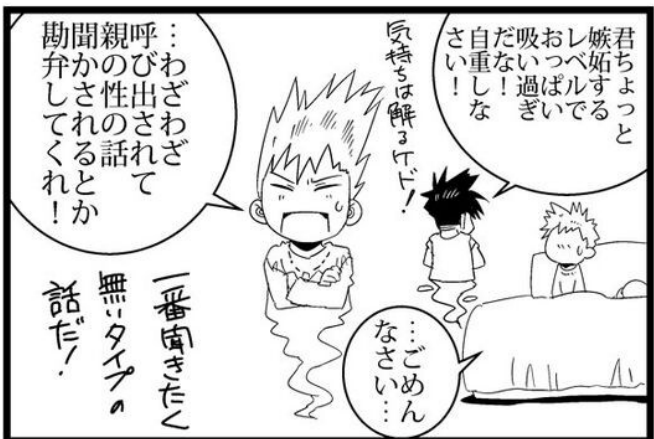
長寿な生物だが
「不死」な訳じゃない
長く続いた恐怖の
季節は前触れ無く
「寿命」という形で
「終」を迎えた

魔竜の死の噂は
瞬く間に広まり
呼応するよう
主を失った魔物達も
人の報復を恐れて
いずここから消えた—

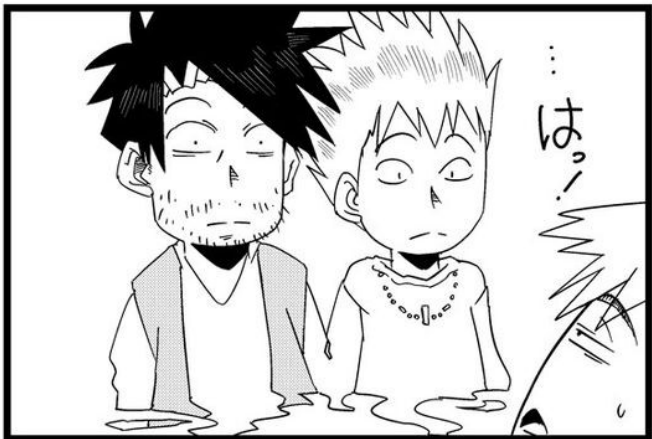


おしまい

そばにいるぞ



夢枕



ホニマに おしまい

この度は
「Under The Dragon's Fear」を
御手にとって戴き
誠に有難う
御座居ます。
最近描くペースが
ちょっと落ちております。
大変申し訳
ありません...。
今回に致しては
ほぼ初めて「奥さん」
系のキャラを手探りで
出してみたので、
上手く受け入れて
戴けるキャラに
なつたかも
気がかりで...。
楽しんで
戴けたら幸いです...
ではでは!



2024.7.16 □